令和6年度事業所防災リーダー優良企業に認定された4社に学ぶ

従業員や利用客を守るための 防災の取り組み

「事業所防災リーダー」はまさに防災の旗振り役。いざというときのための避難訓練や、「帰宅困難者」を作らないための準備や備蓄、また日頃から防災や減災のための情報収集を心がけて、事業所をできるだけ安全な避難場所にするための工夫を重ねている。その取り組みを1社ずつ紹介する。

東京都事業所防災リーダー優良企業

＜大規模事業所部門＞

株式会社カカクコム

「価格.com」「食べログ」「求人ボックス」などのサービスを提供するカカクコムは、社員数増加に伴い防災対策を強化。SNSやDX、アプリを活用し、従業員や来客が安全に避難できるよう防災対策を進めている。

お話をお聞きした事業所防災リーダー

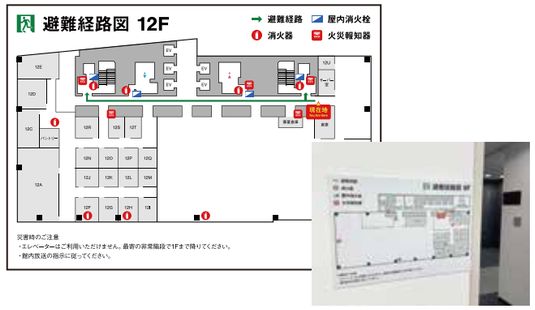
人事部総務本部 総務部

マネージャー	部長	防災担当
林田豊 さん	永井健一 さん	高見明子 さん

事業所防災リーダーに登録して得られた今の時代にアジャストした防災情報

当社では全従業員の半数以上となる、約1000名が渋谷の商業ビル内にあるオフィスで働いています。コロナ禍を経て、現在はオフィスワークとテレワークを組み合わせたハイブリッドワークになっており、誰が出社しているか一見しただけではわからない状態です。今、大きな地震が来たら、300人規模の従業員数だった東日本大震災のときのような、全員の顔が見える避難活動は望めません。そんな中、今の時代に合わせた、より実効性のある防災対策の実現方法を探す過程で出会ったのが、東京都の事業所防災リーダーのサービスと優良企業の表彰制度です。

そこで、もともと社内に81名いる自衛消防隊を全員、すぐに事業所防災リーダーとして登録。防災情報の発信はマニュアルの開示だけでは形骸化しがちですが、「事業所防災リーダー通信」に掲載されている信頼性の高い防災対策コンテンツを社内の掲示板やポータルサイトで共有することが、従業員の防災意識の向上に非常に役立ちました。また他社の防災事例を得られるのもメリットで、その情報をもとに、例えば備蓄食品の中にアレルギー物質不使用のマジックライス（非常食）を含めた方が良いというノウハウも学ぶことができ、すぐに実践しました。



社内のデザイン部門と協力して制作した、誰にでも見やすくわかりやすい避難経路図。消火設備の位置も示している。

帰宅する人のための帰宅支援セットと会社にとどまる人のための備蓄

防災の中でも特に注力したのが、帰宅困難者を作らないための取り組みです。従業員の住まいの最寄り駅から職場までの距離が10キロメートル圏内であれば帰宅可能とし、帰宅支援セットは余裕をみて15キロメートル圏内までの従業員分と、来客者用も用意。いつでもすぐに持ち出せるようリュックに入れて、各フロアの個人ロッカー上部に保管しています。

10キロメートル以遠に住んでいる従業員は会社に寝泊まりできるように、3日分の食料や簡易トイレなどを余裕をみて備蓄しています。もちろん、ご家庭の事情など、本人の強い希望があれば帰宅する場合もあると思うので、帰宅可否の判断をどうするかは、これからの課題の一つだと思います。

さらに災害発生時に外出や休日で従業員がオフィス外にいる場合に備えて安否確認システムを構築。本人、家族の安否、出社可否、母屋の状況、自由記載の質問項目を設定し、メール、LINE、アプリから報告してもらうことで、従業員だけでなくご家族の安否も確認できるようにしています。

今回、事業所防災リーダー優良企業認定制度に応募するために、その審査項目のひとつ一つを確認することが、防災対策の足りている部分と足りない部分を見直す良いきっかけにもなりました。まだまだ不十分な部分を強化していくことが、これからの私たちの課題です。

帰宅者に必要なアイテムを収納。定期的に中身の見直しを行っている。